横田の空兵 巨大C-5Mスーパーギャラクシー実働訓練

Yokota Airmen train with the colossal C-5M Super Galaxy

September 22, 2021

By Staff Sgt. Ryan Lackey
374th Airlift Wing Public Affairs

米空軍最大の輸送機（C-5M）は外見と音で、すぐにそれだと分かる。軍用超大型長距離輸送機として運用を担う中、地球規模のミッションをいつでも展開できるようにするためには、さまざまな専門分野において継続的なトレーニングが必要だ。

横田基地で9月6日から17日、整備、地上クルー、消防などの隊員がC-5Mスーパーギャラクシーの毎年恒例の地上訓練に結集し、比類のない巨大輸送機の実働訓練をフライトライン上で行った。

横田基地は、インド太平洋地域の主要な機動拠点として、スーパーギャラクシーを含む年間数百機の中継機への給油・整備支援を常時行っている。

「C-5Mはとても大きく重量があるので、より小さい輸送機に比べて時が経過するとかなりの負担がかかっている。航空機の運用需要が高い時には、修理の遅れを防ぐためにも、C-5Mの整備に精通した空兵が必要だ」と第730航空機動部隊乗員主任のハンター・ダン上級空兵は語る。

機体は、くまなく点検が行われ、トレーナーたちは昼夜を問わず、エンジンから電気系統、燃料補給、タイヤ交換に至るあらゆる指示を出した。

第730航空機動中隊航空機油圧システム・クラフトマンのランス・ネイバーズ軍曹は、「横田にはC-5Mはないが、膨大な数の中継機のミッションに関わっている」「我々はこのような機会を最大限に活用して、横田以外の航空機を扱える隊員の認証を行い、空軍のさまざまな航空機をサポートできるようにしている」と語る。

この機体の大きさでは、仕事の領域も広い。C-5Mは、航空機の着陸装置5セット、車輪28輪、エンジン4基、翼幅220フィート以上、全長約250フィートの機体、そしてM1A1エイブラムス戦車2両と人員・装備を容易に運ぶことができる貨物室を備えている。

第730航空機動中隊製造監督官ロバート・モーガン曹長は、「この怪物（C-5M)は、よく働く」と言い、「ペイロードをフルにミッションを行っている時は、目を見張るものがある。C-5Mに限らず、我々が手がけた航空機が滑走路を離陸する時、そのために空兵たちが行ったすべての作業を思い起こし、ミッションの実現のために我々が重要な役割を果たしているという、大きな達成感が得られる」と語った。